

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195100060		
法人名	株式会社 日本キャリアサービス		
事業所名	グループホーム だんらん紋別みどり館		
所在地	紋別市緑町4丁目1-5		
自己評価作成日	R3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和3年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、時間を基準とせず、利用者一人ひとりが、自分のペースで生活して頂けるように、可能な限り柔軟に対応するように、取り組んでいます。自立支援、身体能力の維持向上に努め、日々の家事仕事、リハビリ体操と、利用者一人ひとりが、出来る事を、職員と一緒に、無理せず毎日行なっていけるように、常に利用者と共に寄り添い、会話を楽しみながら行う事で、生活意欲の向上を図っています。毎年恒例の行事としては、バーベキューパーティ、敬老会、そば打ち、餅つき、忘年会等を行っている他、季節ごとの、レクリエーションを行い、楽しみのある生活を、送って頂けるように、努めています。今年度は、叶いませんでしたが、毎年、ご家族、地域の方、お友達も参加できる行事行っているとともに、近隣住民と交流が出来るように、町内会の行事には、積極的に参加し、地域との繋がりを大切にしています。又、スタッフ同士の仲間意識が強く、アットホームな雰囲気です。利用者一人ひとりの現在直面している問題を、スタッフ全体で討議して、良い方向に進めるように、解決に向けて話し合いを持ち、全員が周知して処遇しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=0195100060-00&amp;Se">mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=0195100060-00&amp;Se</a>
-------------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年4月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの理念は、グループホームの意義、あり方を全員で確認し理念としたものです。ホームの理念「いつも笑顔がはじける 信頼の我が家 だんらん」を胸に刻みホームの見やすい所に、掲げて実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、コロナウイルスの影響で、町内の行事、地域の行事もなく、外出も自粛していたため、交流は、出来ませんでした。ご近所の方、町内会の方にお会いした時は、積極的に挨拶、声かけを心掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、ボランティア、実習生の受け入れもなく、町内会の行事、地域の行事もなく、グループホームを理解して頂く活動は、出来ませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げられた内容は、貴重な意見として捉え改善が必要な事は、改善しサービスの向上に努めている。議事録は、全御家族に配布し、職員は、閲覧にて共有している。(昨年は、運営推進会議の開催1回のみでした)		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長は、包括支援センターの運営委員を務めている他、毎月利用状況の報告を行い、連絡調整を取りあっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜8時から翌朝7時までは、施錠をおこなっているが、それ以外の身体拘束は、行っていない。センサーマットの使用については、フロア会議で話し合い、本人ご家族に同意を得た上で使用し、安全確保に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度虐待防止の研修は、開催されませんでした。毎年職員が交代で受講しているため、理解しています。日々スタッフ同士注意し合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度、成年後見制度の研修開催はありませんでしたが、必要な時に助言出来るようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、ホーム長、管理者、ご家族の代表が、顔を合わせる中、契約書を読み上げ、理解して頂くように努めている。特に、利用料や起こりうるリスク、重度化に対する指針、医療連携体制の実施については、詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内は、いつも明るい雰囲気にして、ご家族の面会時、ホームでの出来事、日頃の様子をお話して、ご家族も積極的に意見を発信できるように気配りしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、個別面談を行い、意見を聞くようにしている。又日頃から、コミュニケーションを図るように心掛け、いつでも、意見が言えるような環境作りに、努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2,3か月に一度本社から、代表が来設し、管理者、職員と意見交換をして要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で行われる研修、又は、その時々に行っているテーマにそった勉強会には、職員が交代で行けるように配慮しているが、今年度は、研修がありませんでした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	紋別市の同業者が集まる集い、勉強会、連携会議今年度は、ありませんでした。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の相談体制として、本人とご家族に来所して頂き、見学、説明をし理解して頂くように、努めている。又、希望があれば、日帰り体験をして頂き、納得して頂くように、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の取り組みや、苦勞、要望、サービスの利用状況等を含め、ゆっくり話し合いを持ち、ホームでの生活に不安が少なくなるような、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のこれまでの取り組みを聞くとともに、地域にある他の福祉サービスについても助言を行うようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、一緒に作業をしたり会話をすることにより、思いを分かち合い、根本にある不安、悲しみ、喜びを知ることにより、ご家族に近い関係が築けるように努力している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や思いを、きめ細かく伝える事で、ご家族と職員の思いが重なり、最良の支援ができるように、連携している。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎年、町内会の行事に参加して、馴染みの方と出会う機会があったり、ホームの行事にお友達を招いていましたが、今年度は、叶いませんでした。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが、孤立しないように、職員が間に入り会話や、ゲーム等の楽しみ事を通して、利用者同士が、交流できるように、配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養により、ホームを離れた方の所には、機会を見て様子をうかがいに行くようにしている。(今年度は、面会できませんでした)			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、アセスメントをプラン更新時に作成し、一人ひとりの思いや、希望の把握に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、ご本人や、ご家族にこれまでの経過について意見の聞き取りをして生活歴の把握に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握して、その中から残存能力、状態の変化をくみ取る様に、支援している。又、介護記録を通して、気がついたことや、心身状態の変化は、報告し現状の変化の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、計画作成担当者、管理者、担当スタッフとアセスメントや、モニタリング行って、その方のニーズに合った、ケアプランを作成している。ご家族には、電話で確認し、郵送にて理解して頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、受診ノート、引継ノートの記録を通して情報を共有し、より良い支援が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて、通院や送迎、必要物品の買い出しなど、必要な支援は、柔軟に対応して個々の満足を高めるように、努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、公共施設や、地域の行事に参加し楽しむことの出来る支援ができませんでした。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療科により一部は、専門医にかかっているが、他は、訪問診療を受けている。夜間、休日でも対応してくれることから、ご家族、本人に納得してもらった上で、訪問診療に、変えている。診療結果、変わった事があった時は、ご家族に報告している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、日頃の健康管理や医療面での看護、相談、連絡と迅速な対応を行っている。又、訪問看護、訪問診療の契約に基づき医療面での相談、助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時は、3日に一回くらいの間隔で、必要物品、洗濯物の支援を行っている。又、面会時、看護師に病状、治療経過、退院の見通し等を伺い、情報交換をしている。場合によっては、ご家族と一緒に主治医、看護師との話し合いの場所にも同席している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針は、入所時ご家族に説明し、理解して頂いており、事業所ができる最大限のケアについて説明を行っている。終末期については、意見確認書を、本人とご家族に作成して頂き、要望が変わった時は、柔軟に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時、応急手当の手順は、ステーションの見やすい所に置き、職員が閲覧している。又、訪問看護、訪問診療とも連携を整え、早期発見、早期対応に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼、夜を想定した訓練を行っており、夜間想定の際は、地域の方を交えた訓練を行い、消防機関の出向指導を受けています。又、地震、水害に関しては、防災マニュアルを作成し、職員全員で、確認している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人権を尊重した対応、尊厳を持つての対応に、心がけている。又、プライバシーを損ねない言葉掛けを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との馴染みの関係を通して、お互いに話しやすい関係を、構築している。コミュニケーションを通して思いや希望を受け入れられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれることなく、利用者が本人の意思で、一日を過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今年度は、馴染みの美容室に出かけることは出来ませんでした。美容師さんに来てもらい、一人ひとりが希望する髪型にカットして頂いている。又、可能な方には、起床時着る服を自己選択してもらうように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事は、楽しみの一つなので、好みの食べ物を伺い提供したり、彩りにも気を使い、温かいものは温かい状態で、冷たいものは、冷たいうちに食べて頂くようにしている。又、調理の下ごしらえ、食事の後始末、庭の野菜取り等、職員と一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取、食事摂取については、その都度記録に残している。又、毎食職員と一緒に食事することで、一人ひとりの好み、量、食べ方など把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、ご自分で行って頂き、汚れが落ちてない部分は、職員が介助している。必要な方には、入れ歯専用ブラシ、口腔用スポンジを使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者全員が、トイレで排泄して頂くように、一人ひとりの排泄パターンから、トイレの声かけをして、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や、及ぼす影響について理解するとともに、医療職、看護職と連携して、服薬や食事水分補給のアプローチにより、便秘予防、改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や、時間帯をホームで仮設定しているが、ご本人にその都度確認し、入浴して頂いている。入浴拒否がある時は話し相手をする事で、気分が変わり入浴して頂けることもあるが、無理な入浴は、していない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のその日の変化に応じて、休息できるようにしている他、午後から、1時間ほど居室で休んで頂けるように、声かけをしている。又、夜間安眠して頂けるように、日中体操を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服用している薬(処方箋)を把握するように努めている。受診後、薬の変更がある時は、職員全員が引き継ぎ出来るようにしている。服薬支援時は、間違えがないように、必ず二名で声出し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の役割として、利用者全員が、自分の出来る事を、職員と一緒に、毎日継続して行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、コロナウイルスの影響で、外出は、自粛しましたが、お天気の良い日は、中庭で、日光浴、お茶、野菜の収穫、バーベキュー等、気分転換をして、楽しんで頂けるような支援をしました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の利用者は、自分でお金を管理したい方がいない為、事務所で管理し、必要な時に使えるようにしている。今年度は、一緒に買い物に行くのは、控えているが、入居者の要望に応じて、職員、ご家族が買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は、自由であり、本人の希望により対応している。今年度は、面会を遠慮して頂いている期間が長かったこともあり、時々電話でお話して頂くように、配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように、リビングには、季節のお花を飾ったり、壁には、季節感のある飾り付けをする等、雰囲気作りに心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファを複数置き、気の合った同士が、思い思いに過ごせるようにしている。中庭には、ベンチを置くなどして、利用者が、日光浴や、お花を眺めたり出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のレイアウトは、ご本人と、ご家族に任せている。持ち込む者については、本人の馴染みの物を置いて頂き、落ち着いて暮らせるようにしている。転倒の危険がある方は、ご家族と相談のうえ、怪我がないように配置し、広く使えるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にわかりやすいように、案内板などを付け、出来る事を、増やせるように、工夫している。		